

令和4年11月定例会

建設委員会資料  
(都市整備部)





(仮称) 秋田市中心市街地活性化プランの原案について

1 目的

中心市街地においては、第2期中心市街地活性化基本計画（平成29年度～令和3年度）に基づき、あきた芸術劇場ミルハスやクロッセ秋田の整備など官民の活性化に向けた取組が行われてきた結果、居住人口の増加や地価の上昇といった成果が現れてきている。一方で、中心市街地内の回遊性の低さや大規模な低未利用地・空き店舗が存在しているなど、依然として課題も残っている。

今後は、こうした課題を踏まえ、さらなる活性化とにぎわいの創出を図っていく必要があるため、第2期計画を継承した「(仮称) 秋田市中心市街地活性化プラン」（任意計画）を策定するものである。

2 計画の概要

(1) 期間

令和5年度～令和9年度（5年間）

(2) 基本コンセプト

集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。  
～城下町ルネサンスの継承～

活性化の基本コンセプトは、中心市街地が、市民が楽しめる集いの場として、また、居住、創業、市民活動の場など、様々な場面において今以上に選ばれることを目指し、上記のとおり設定する。

また、今後は第2期計画までに整備した施設等を活用して活性化を図っていくことから、前計画の基本コンセプトを踏まえ、サブテーマを「城下町ルネサンスの継承」とする。

(3) 目標・目標指標

目標	目標指標	現況値	目標値
人々が集いにぎわうまち	歩行者・自転車通行量 (区域内12箇所、7月下旬)	24,738人 (R4年度)	33,300人 (R9年度)
芸術文化が香るまち	芸術文化施設利用者数 (1日あたり)	290人/日 (R3年度)	ミルハス実績 確認後設定
暮らしたくなるまち	市内総人口のうち中心市街地人口が占める割合	1.4% (R3年度)	1.9% (R9年度)
チャレンジできるまち	商業集積促進関連制度利用件数 (5年間の累計)	181件 (H29～R3年度)	181件 (R5～R9年度)
市民がつくるまち	市民活動等施設利用件数 (年間)	17,082件 (R3年度)	19,800件 (R9年度)

(4) 掲載事業

46事業（市：26事業、民：20事業）

### 3 策定スケジュール

令和4年11月2日	庁内委員会（原案提示）
11月24日	中心市街地活性化協議会（原案提示、意見聴取）
12月14日	11月議会建設委員会（原案提示）
12月下旬	市民100人会意見聴取 パブリックコメント実施
令和5年1月下旬	庁内委員会（計画案提示）
2月上旬	中心市街地活性化協議会（計画案提示、意見聴取）
3月中旬	2月議会建設委員会（計画案提示）
3月下旬	策定・公表

## 中心市街地の現状分析

## 課題の抽出

<b>視点1</b> 統計データから見た整理	①人口動向	・秋田市全体の人口は減少傾向にあるものの、中心市街地の人口は増加傾向にある。
	②商業動向	・空き店舗が継続的に発生している。
	③観光	・中心市街地の観光入込客数は新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅に減少している。
	④土地（低未利用地、地価）	・中心市街地には依然として大規模低未利用地が存在している。 ・駅前商業地の地価が令和元年に27年ぶりに上昇に転じた。

<b>視点2</b> 市民ニーズから見た整理	①市民アンケート	・来訪頻度は「月に1~2回」「上記未満／ほとんど行かない」といった低頻度が約7割ほどを占めている。
	②商店主アンケート	・市民からは今後の中心市街地活性化の方向性として、「周辺からの交通利便性」「集客力のある施設整備」「商店街の店舗数を増やす」などの項目が上位に挙げられた。
	③居住者アンケート	・商店主からは今後の中心市街地活性化の方向性として、「商店街の店舗数を増やす」「中心市街地に事業所を誘致」などの項目が上位に挙げられた。
	④低未利用地アンケート	・居住者の周辺環境の満足度は「満足」「まあまあ満足」合わせて約85%と高い満足度を示していた。
	⑤街頭ヒアリング	・低未利用地所有者の活用方針として「当分現状のままにしておきたい」が約85%を占めていた。 ・平日、休日どちらも70%以上の中心市街地来訪者が更なる活性化を求めている。

<b>視点3</b> 前計画の目標指標の達成状況から見た整理	①行きたい街 歩行者・自転車通行量 芸術文化施設利用者数	<b>歩行者・自転車通行量（未達成）</b> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、歩行者・自転車通行量が減少した。 ・各地点で歩行者・自転車通行量に数値の開きがあり、中心市街地全体の回遊性が低い。 <b>芸術文化施設利用者数（未達成）</b> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響、芸術文化施設利用者数が減少した。 ・新型コロナウイルス感染拡大が収束することにより訪日外国人による観光需要が回復することが期待される。
	②住みたい街 中心市街地人口の社会増加数	<b>中心市街地における人口の社会増加数（未達成（基準値より改善））</b> ・新規建設マンションへの転入により、中心市街地の人口シェアは増加傾向にある。 ・快適で便利なまちなか居住を支える生活利便施設が不足している。
	③活力ある街 商業集積促進関連制度利用件数 市民活動等施設利用件数	<b>商業集積促進関連制度利用件数（達成）</b> ・中心市街地商業集積促進事業補助制度を中心に想定以上の利用件数がある。 ・中心市街地内外を問わず市内店舗の満足度が低下している。 <b>市民活動等施設利用件数（未達成）</b> ・新型コロナウイルス感染拡大による外出機会減少の影響により、市民活動等施設利用件数が減少した。 ・秋田市文化創造館の利用件数は目標値を大きく上回った。

にぎわい、人々の居住、事業者・市民活動に着目し再整理

### 現況1 にぎわいに着目

- ・まちのにぎわい創出が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けている。
- ・第1期、第2期計画を通じて、にぎわい創出に寄与する各種施設が整備されてきている。
- ・中心市街地全体の回遊性が低い。
- ・交通利便性の向上が求められている。

### 課題1

既存施設を活かした  
来街者増加と  
回遊性の向上

### 現況2 人々の居住に着目

- ・民間マンションの建設により居住人口は増加傾向にある。
- ・居住者は、日常的な買物に対応した商業施設や安全、快適で便利な居住環境の整備を望んでいる。

### 課題2

居住環境の向上  
による住みやすい  
まちづくり

### 現況3 事業者・市民活動に着目

- ・中心市街地内外問わず、店舗の満足度が低下している。
- ・大規模な空き地・空きビルが存在している。
- ・市民活動の活発化への基盤が形成されてきている。

### 課題3

商店街の魅力向上と  
中心市街地活性化の  
担い手の育成

## 課題の抽出

## 基本コンセプト

## 目標および目標指標の設定

課題1  
既存施設を活かした  
来街者増加と  
回遊性の向上

課題2  
居住環境の向上  
による住みやすい  
まちづくり

課題3  
商店街の魅力向上と  
中心市街地活性化の  
担い手の育成

集い・楽しみ・住み・創る、  
選ばれるまち。  
城下町ルネサンスの継承

目標	取組方針	主な事業	目標指標	目標値	設定根拠
人々が集いにぎわうまち	各種イベントなどによるにぎわいの波及	中心市街地内ソフト事業 ・広小路バザール ・千秋公園桜まつり・つつじまつり ・これが秋田だ！食と芸能大祭典	歩行者・自転車 通行量 (区域内12箇 所、7月下旬)	現況 (R4年度) 24,738人 目標値 (R9年度) 33,300人	コロナ禍前後の 傾向を考慮し設 定
芸術文化が 香るまち	芸術文化と身 近にふれあえ る環境づくり	既存ハード改修・改築事業 芸術文化関連のソフト事業 ・千秋美術館改修事業 ・佐竹史料館改築事業 ・芸術文化のまちづくり推進事業	芸術文化施設利 用者数 (1日あたり)	現況 (R3年度) 290人/日 目標値 (R9年度) ミルハス実績確認後 設定	原則としてコロ ナ禍前である令 和元年度の実績 値を回復するも のとし、ミルハ スの実績値を踏 まえて設定
暮らしたく なるまち	暮らしのため の環境整備	民間マンション建築への支援 居住環境の整備 ・千秋久保田町地区優良建築物等整 備事業 ・住宅リフォーム支援事業 ・(仮称)中通牛島線無電柱化事業	市内総人口のう ち中心市街地人 口が占める割合	現況 (R3年度) 1.4% 目標値 (R9年度) 1.9%	過去からの人口 変動の傾向によ る推計値にマン ション等による 増加を加味して 設定
チャレンジ できるまち	商店街等の魅 力向上と活性 化への支援	中心市街地の空き店舗への支援 創業支援事業 ・中心市街地商業集積促進事業 ・チャレンジオフィスあきたの運営	商業集積促進関 連制度利用件数 (5年間の累 計)	現況 (H29～R3年度) 181件 目標値 (R5～R9年度) 181件	第2期計画にお いて目標値を大 幅に上回った実 績値を維持する ものとして設定
市民が つくるまち	まちに関わり まちを楽しむ 人づくり	市民活動支援事業 ・文化創造プロジェクト ・市民協働・市民活動支援事業	市民活動等施設 利用件数 (年間)	現況 (R3年度) 17,082件 目標値 (R9年度) 19,800件	原則としてコロ ナ禍前である令 和元年度の実績 値を回復するも のとして設定

## (仮称) 秋田市中心市街地活性化プラン 掲載事業リスト【原案】

目標	番号	掲載事業名	事業種	事業期間					事業主体	
				R5	R6	R7	R8	R9	市	民
人々が集いにぎわうまち	1	中心市街地魅力アップ事業	ソフト							●
	2	ギョギョつとあきた週末イベントリレー	ソフト							●
	3	ヤートセ秋田祭	ソフト							●
	4	これが秋田だ！食と芸能大祭典	ソフト							●
	5	秋田犬ふれあい処in千秋公園	ソフト							●
	6	千秋公園蓮の花ライトアップ	ソフト							●
	7	千秋公園桜まつり・つつじまつり	ソフト							●
	8	秋田竿燈まつり	ソフト							●
	9	クルーズ船等おもてなし態勢の充実事業	ソフト							●
	10	まちなか観光案内所運営経費	ソフト							●
	11	官民連携秋田駅周辺活性化事業	ソフト						●	
	12	秋田市民交流プラザ等修繕	ハード						●	
	13	高齢者コインバス事業	ソフト						●	
	14	千秋公園整備事業	ハード						●	
	15	秋田駅前北第一地区市街地再開発事業	ハード							●
	16	中心市街地循環バス運行事業	ソフト						●	
	17	ノーザンステーションゲート秋田(秋田駅周辺の賑わい創出事業)	ソフト							●
	18	新 広小路バザール	ソフト							●
	19	千秋蓮まつり	ソフト							●
	20	千秋花火(あきた元気祭り)	ソフト							●
	21	なかいち芸術文化施設連携事業	ソフト							●
	22	新 ノーザンステーションゲート秋田(秋田駅東口エリアにおける自社用地活用の検討)	ハード							●
芸術文化が香るまち	23	新 あきた芸術劇場施設管理運営費	ソフト						●	
	24	アキタミュージックフェスティバル(AkitaMusicFestival)	ソフト							●
	25	秋田市芸術祭	ソフト							●
	26	芸術文化のまちづくり推進事業	ソフト						●	
	27	「美術館の街」活性化事業	ソフト						●	
	28	新 秋田市立千秋美術館改修工事	ハード						●	
	29	民俗芸能伝承館経常事業	ソフト						●	
	30	新 佐竹史の魅力発信事業	ソフト						●	
	31	新 佐竹史料館改築事業	ハード						●	
	32	障がい者アート活動支援事業	ソフト						●	
暮らしがよくなるまち	33	秋田市住宅リフォーム支援事業	ソフト						●	
	34	秋田駅東口駅前広場施設改修	ハード						●	
	35	新 (仮称)中通牛島線無電柱化事業	ハード			未定			●	
	36	新 千秋久保田町地区優良建築物等整備事業	ハード							●
	37	秋田市空き家定住推進事業	ソフト						●	
	38	秋田駅西北地区土地区画整理事業	ハード						●	
チャレンジできるまち	39	中心市街地商業集積促進事業	ソフト						●	
	40	中心市街地出店促進融資あっせん制度	ソフト						●	
	41	チャレンジオフィスあきたの運営	ソフト						●	
	42	商工業振興奨励措置事業	ソフト						●	
市民がつくるまち	43	文化創造プロジェクト	ソフト						●	
	44	文化創造館管理運営経費	ソフト						●	
	45	アルヴェきらめきパフォーマー事業	ソフト						●	
	46	市民協働・市民活動支援事業	ソフト						●	
新規事業数:8		ハード事業数:10 ソフト事業数:36		実施主体 市:26 民:20						
新規事業:令和4年度以降に実施、本格化した事業										

※上記継続事業のほか、各種団体や地域によるイベントなども実施されております。



## 公共交通網再編方針について

### 1 公共交通網再編検討に至った経緯と現状分析

#### (1) 検討に至った経緯

本市の公共交通については、利用者の減少や運転手不足に伴う運行便数の削減など、非常に厳しい状況下であり、今後更に人口減少や高齢化が進むことを見据えると、将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークを構築し、地域における移動手段の確保を図っていく必要がある。

そのため、令和3年3月に策定した「第3次秋田市公共交通政策ビジョン（秋田市地域公共交通計画）」に基づき、地域の特性に合わせた、持続可能な公共交通網への再編検討を進めているところである。

本年度は、「データによる地域交通の状況把握」を行ったうえで、「再編方針（案）の作成」と「具現化に向けた実証事業の実施」および「その他施策の検討」を進めているところである。

#### (2) 持続可能な公共交通サービスの実現

第3次公共交通政策ビジョンに基づき、鉄道（骨格）、幹線バス（大動脈）および小型車両による面的交通（毛細血管）を組み合わせた、乗換を前提とした利便性の高い公共交通網への再構築を進める。

移動目的および目的地が多様化している現在においては、特徴の異なる交通手段を組み合わせ、それぞれの特性を生かした効率的な運行とすることで、きめ細かく移動需要に対応できる公共交通網とすることが重要である。





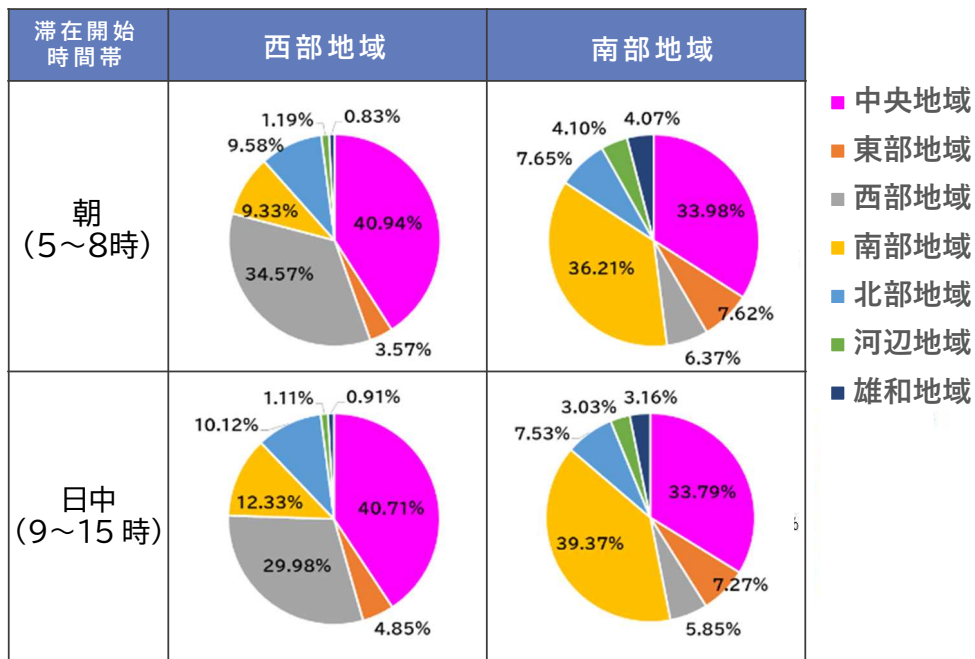
## 2 各種データに基づく地域・交通の現状分析

今後の公共交通網再編や新たな交通手段の検討のため、スマートフォンの位置情報データやバス運行情報等を活用し、秋田市内の人の動き（需要）と現在のバス路線（供給）の状況を分析し、地域が抱える移動に関する課題を抽出している。

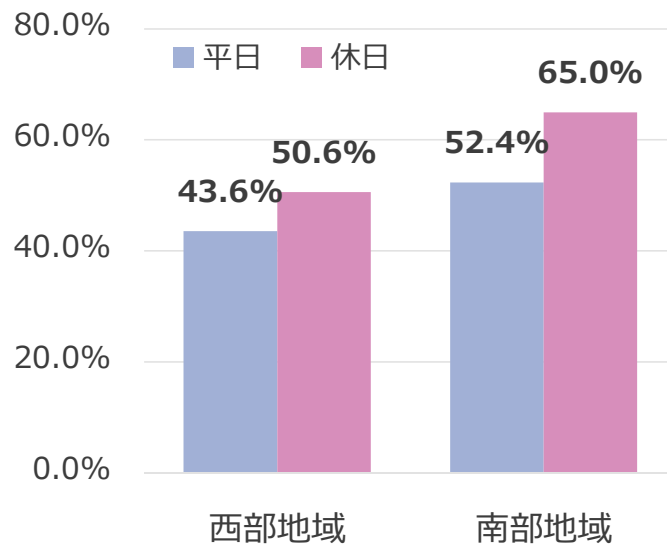
### (1) 市民は日常どういう移動（生活）をしているか？（人流データ分析）

- ・各地域ともに、3～4割の住民が中央地域に移動（通勤又は通学等）
- ・日中は地域内での移動が多くを占める など

▼滞在地域の内訳（西部・南部）



▼地域内滞在割合（西部・南部）

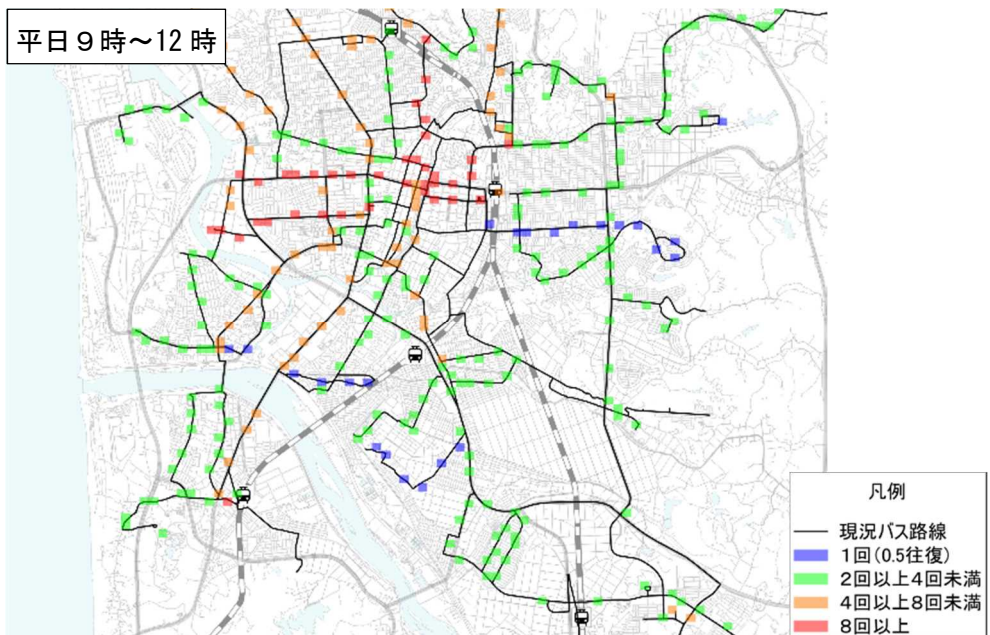
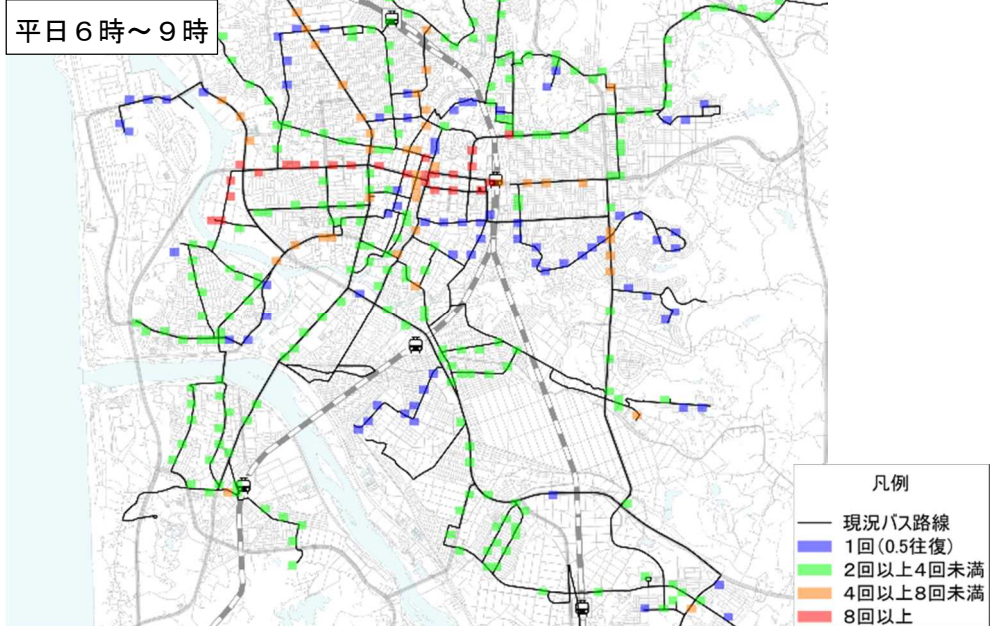




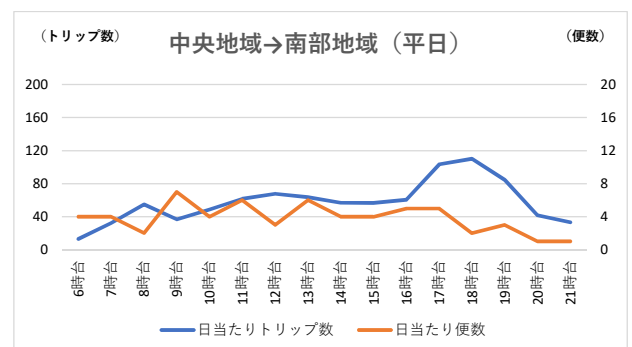
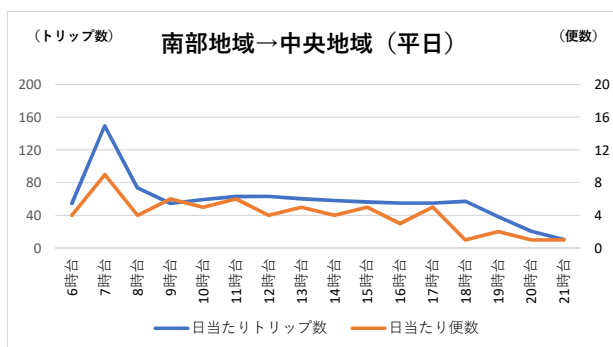
## (2) 時間帯別の需給状況はどうか

- ・ 時間帯によって、公共交通空白地域が発生
- ・ 移動需要のピークと輸送手段の供給のバランスが一致していない

### ▼時間帯別・停留所別停車回数（時刻表上の停車回数をカウント）



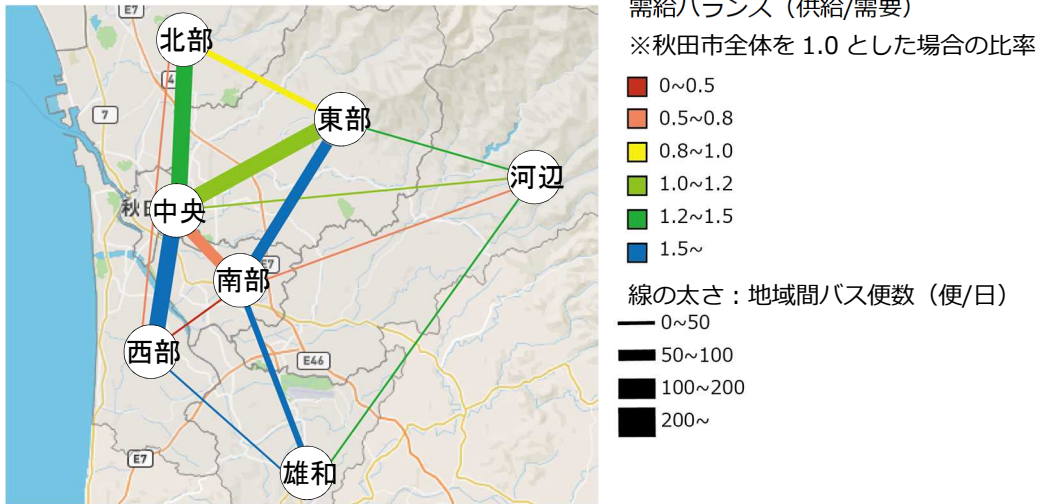
### ▼時間帯別の需給バランス（南部地域⇄中央地域）



(3) 地域間の需給バランスはどうか？（人流データ+バス運行情報）

- ・ 中央⇔北部・東部・西部地域のバス供給量は多いが、供給量は過剰な傾向
- ・ 南部⇔中央地域のバスは、他の地域と比べて需要に対する供給量が少ないなど

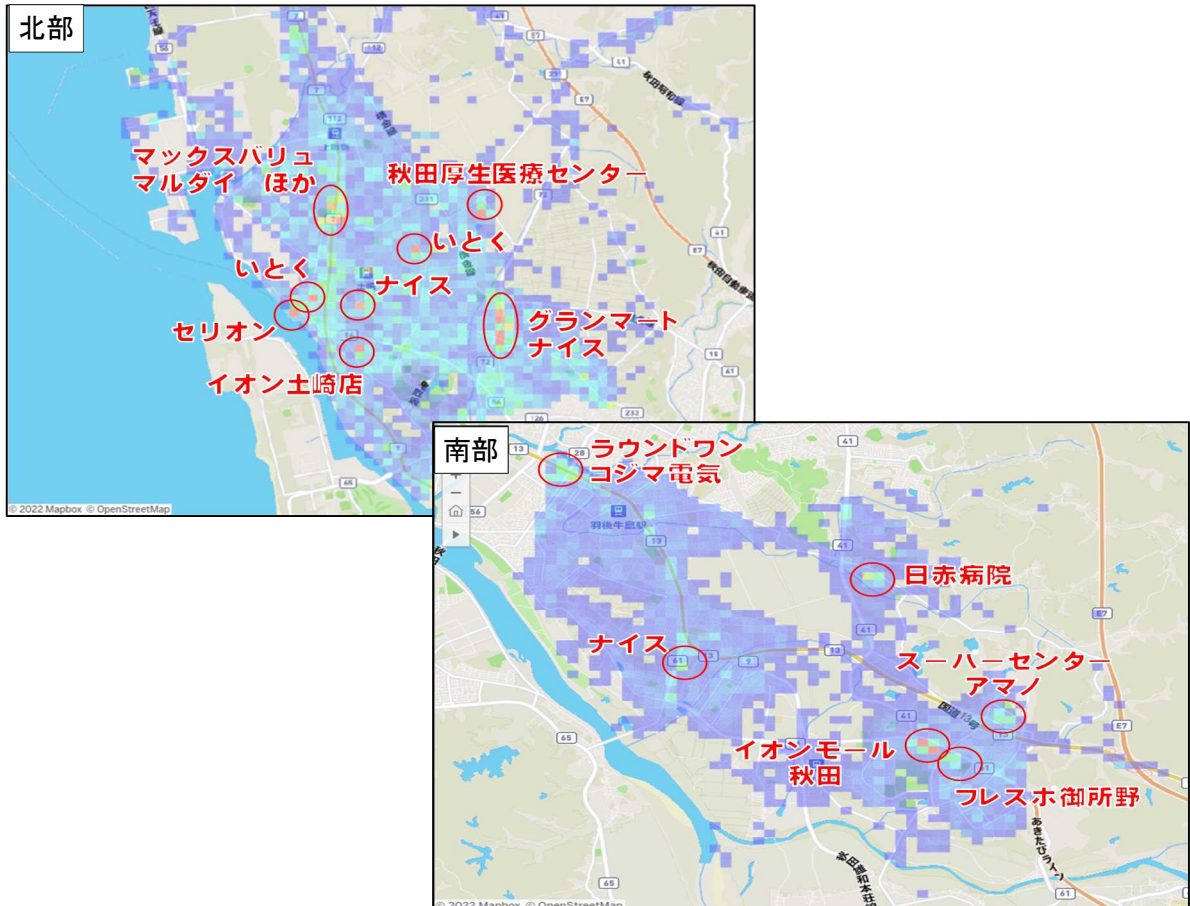
▼地域間の需給バランス（供給（バス便数）／需要（人流データ）



(4) 地域の目的地（拠点）はどこにあるか？（人流データ）

- ・ 平日はスーパーなどの地域の商業施設および病院への移動が多い

▼来訪箇所のメッシュ分布（北部・南部：平日）





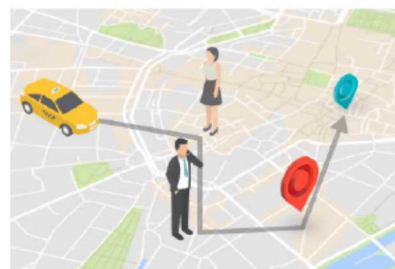
### 3 公共交通網再編方針（骨子案）

将来にわたり持続可能な公共交通網の実現のため、日常生活のための地域内移動を担う新たな面的交通手段を導入し、必要な移動を確保した上で、秋田駅を中心とした放射状路線網から、乗換を前提とした格子状路線網への段階的移行を実施する。

また、公共交通事業者等と連携した共同経営体設立を検討し、行政が積極的に関与していくことで、個別路線の収支にとらわれない公共交通網の実現および維持を図る。

#### (1) 新たな生活交通としての（仮称）エリアタクシーの導入

- ・ 運行区域およびサービス提供時間のみを定めた乗合タクシーを予定(令和4年度末に南部地域において実証事業実施予定)
- ・ 地域内移動に限定した、安価に利用できる交通として運行
- ・ 地域の特性に応じて、AIを活用したオンデマンド交通又は買物タクシーのような簡易デマンド交通を検討



#### (2) 乗換を前提とした幹線的バス路線網への再編

- ・ 人流データによる潜在ニーズと、利用実績に基づく顕在ニーズを踏まえ、バス路線の効率的な運行、利便性向上を目的とした再編の方向性を検討
- ・ 秋田駅を中心とした放射型路線網から、多様な経路を選択できる格子状路線網への転換を想定
- ・ 支線的なバス路線は、新たに導入するエリアタクシーが担うこととし、幹線的バス路線を一定頻度で運行可能な環境を整備
- ・ 乗換前提の路線であるため、乗換環境の確保と適切な情報提供環境の整備を推進



#### (3) 地域公共交通共同経営体の設立検討

- ・ 行政の積極的な関与の下、事業者の経営状態に左右されることなく公共交通網を維持していくため、官民連携で公共交通を運営する新たな経営形態を検討（独占禁止法特例法に基づく公共交通共同経営体の設立など）

(4) 再編実施後の対応

- ・ A k i C A の利用状況や、エリアタクシーの予約状況による詳細な乗降データにより、最新の移動状況を把握し、P D C A サイクルに基づく改善を継続的に実施

(5) 今後のスケジュール

・ 複数地区での（仮称）エリアタクシーの運行

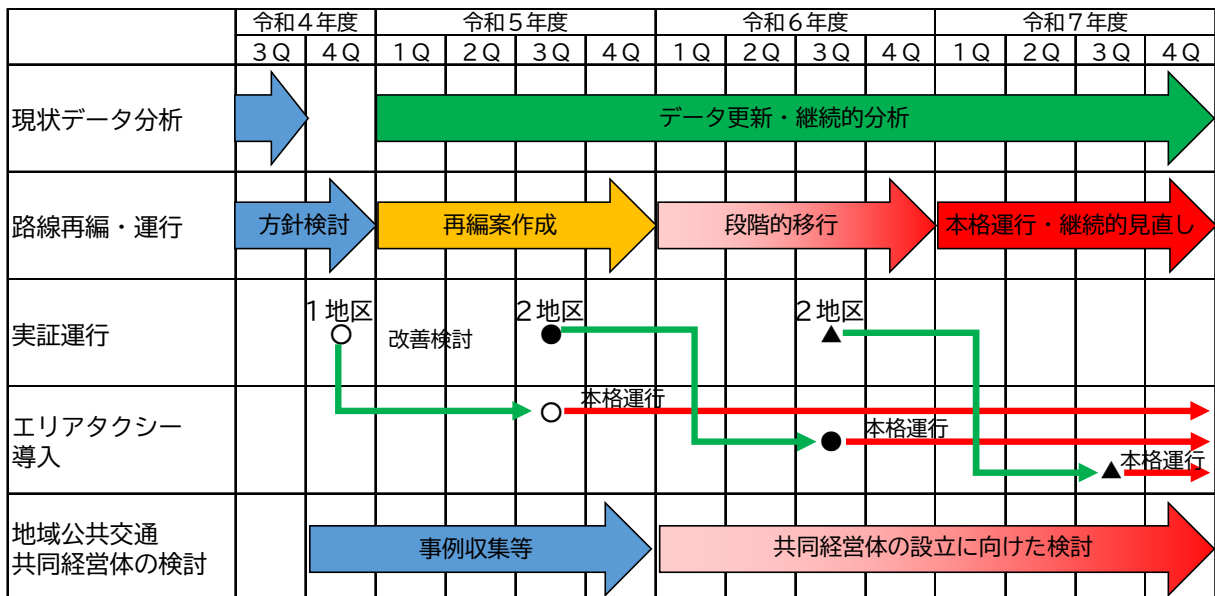
令和7年度から市街地全域（想定5エリア）での本格運行を目指し、実証事業を実施

・ バス路線の抜本的再編実施

エリアタクシーによる地域内移動の確保をベースに、放射状から格子状路線網の再編を段階的に実施

・ 地域公共交通共同経営体の設立検討（バス・タクシー・行政ほか）

公共交通事業者等と連携した新たな経営形態を検討



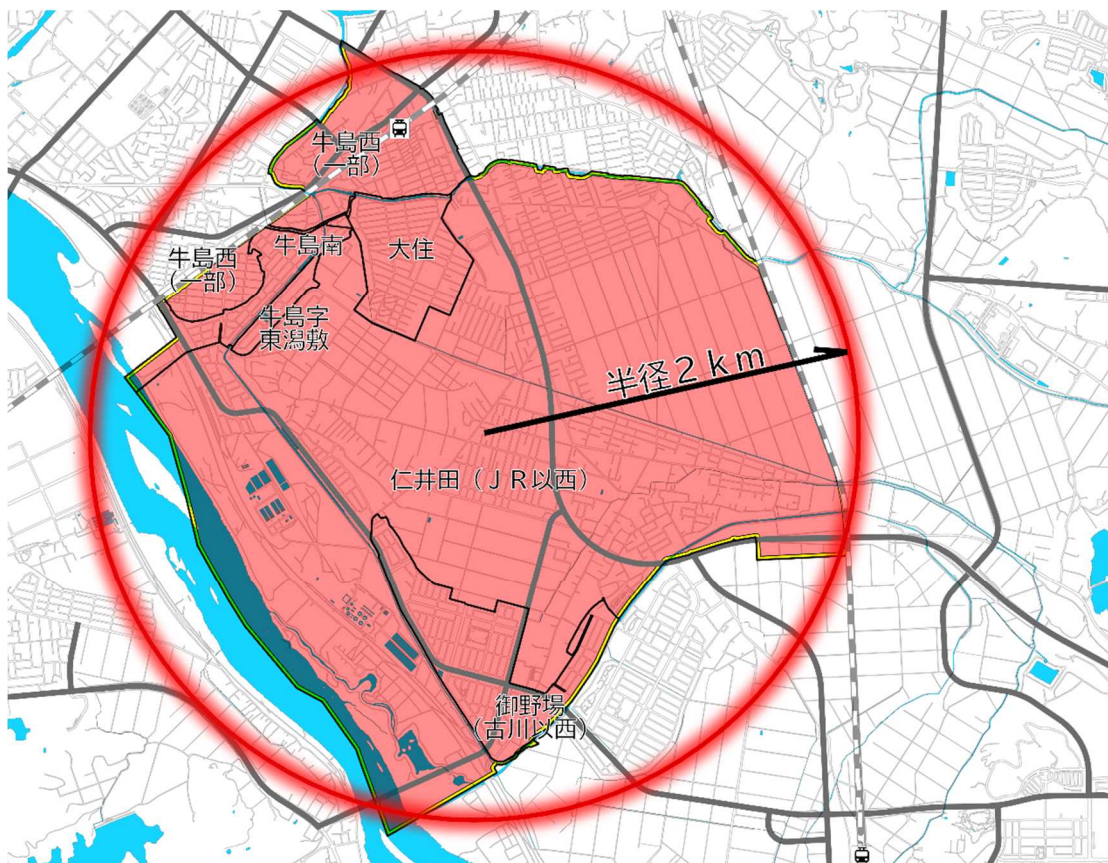
#### 4 AIオンデマンド交通の実証について

路線バスの減便により生活に必要な移動の確保に支障が生じている地区において、小型車両による面的交通を導入することで、生活の足を確保するとともに、今後の横展開を想定し、本市におけるAIオンデマンド交通導入にあたっての課題を抽出することを目的として行うものである。

##### (1) 実証事業内容（案）

- ・実施地区 牛島・大住・仁井田地区およびその周辺を含む半径約2kmの地区  
乗降車は、事前に設定した乗降ポイントのみ可能とし、区域外への運行は行わない。（下図参照）  
乗降ポイントは、スーパー、クリニック等を中心とし、概ね半径200mごとに設置
- ・実証時期 令和5年2月前後（1～2か月間）
- ・事業内容 AIによる配車システムを活用した乗合タクシー
- ・車両台数 小型車2台（予備車両含む）
- ・運行時間 8時～17時
- ・運賃 1乗車300円/人

▼実証事業実施地区（案）





## (2) AI オンデマンド交通の概要

- ・ 小型車を使った予約制乗合タクシー
- ・ 時刻、経路を定めず、予約に応じて、AI が瞬時にルート进行計算
- ・ 予約は、WEBアプリまたは電話で行う。



## (3) AI オンデマンド交通の利用イメージ

